



西中だより

学校教育目標

志を持ち 自ら学ぶ 健康でたくましい生徒

県下に誇れる西中を



桶川市立桶川西中学校
令和4年 9月22日
第7号



世の中を照らす人間に

ゆずり葉学級主任 細田 達矢

小さい頃から、日本語が面白くて大好きでした。「最初に【あ】を習って、次に【い】を習う。日本人は最初に【愛】を覚えるんだ！」と恥ずかしげもなく叫んでいた小学生時代。振り返ると顔から火が出るほど恥ずかしいことを言っていたなと思います。

さて、「この子らを世の光に」と、「この子らに世の光を」。この二つの言葉は似ているようで少し違います。前者は、「この子ら」の存在そのものが世を照らす明るい光になる、という意味にとれます。後者は、「この子ら」は不自由で可哀想な子だから光で照らしてあげないといけない、という意味にとれます。「を」と「に」を逆にするだけで反対の意味になってしまう日本語は、やはり面白いと感じます。

「この子らを世の光に」とは、社会福祉の実践家で知的障がい教育に情熱を捧げた故・糸賀一雄氏の著書の書名になっています。「この子ら」とは障がいを持つ人たちのことを指しています。障がいを持っている人は不自由で可哀想だから世の光を当ててあげようと哀れみを受けがちですが、そうではなく「彼らの歩みはゆっくりではありますが、その存在そのものから世の中を明るく照らす光が出ている」と述べられていました。漫画「鋼の錬金術師」の登場人物の一人は、肉体を失い、魂を鎧に定着させています。そんな彼が、「そんな不幸な身体になってまで・・・」と問われ、「たしかにこの身体だと不自由な事はたくさんある。だけど不自由である事と不幸である事はイコールじゃない。哀れに思われるいわれはないよ！」と返しています。自らの思い込みで価値観の違いを理解できず、他人を否定し哀れに思うことは間違いであると教えてくれました。漫画「呪術廻戦」の中には「私は綺麗にオシャレしてる私が大好きだ！！強くあろうとする私が大好きだ！！」というセリフがあります。とことんまで自分らしさを追求し、自分が自分を認めている力強い場面です。

この先、意見の対立や自分に自信を持たず、相手や自分に対して負の感情を抱く場面も出てくるかと思います。そんな時、西中生が他人のことも自分のことも認め、受け入れ、理解し、世を照らす明るい光になれるようにサポートをしていくと同時に、私自身もそんな人であり続けられるように努力していきたいと思います。